

# 英語とアートと相性の良さから英語力とアート力の身に着け方を考える

英語班:北尾 吉弘、福元 大智、西原 実優、小林 俊介

## 要約

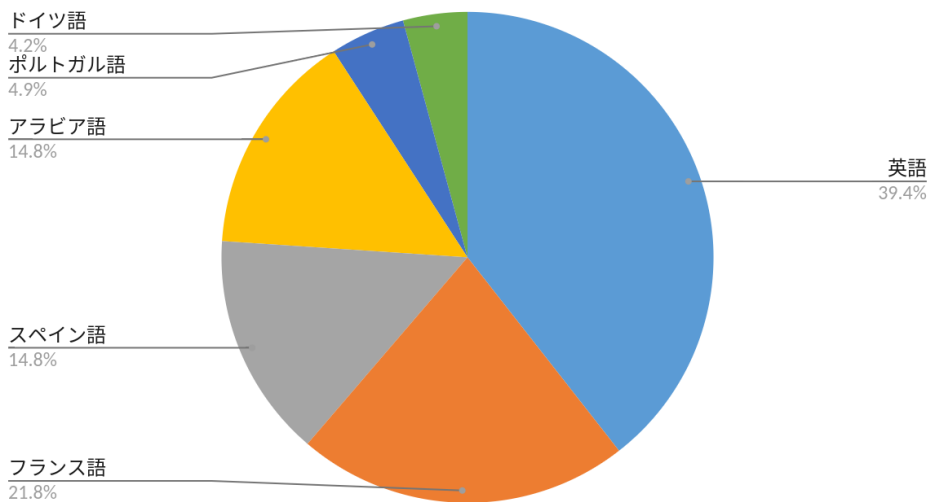
《CLIL》という英語の習得法を参考にして、英語を用いてアートを学ぶことで相乗効果が得られると同時に、現代で求められているデザイン力と英語力を身につけることができると考えた。アートという視覚的な情報と記憶力や想像力の関係を調べることでアートと英語の相性の良さを検証し、アートの授業を英語で学ぶことが有効だという結論にたどりついた。

## 1. はじめに

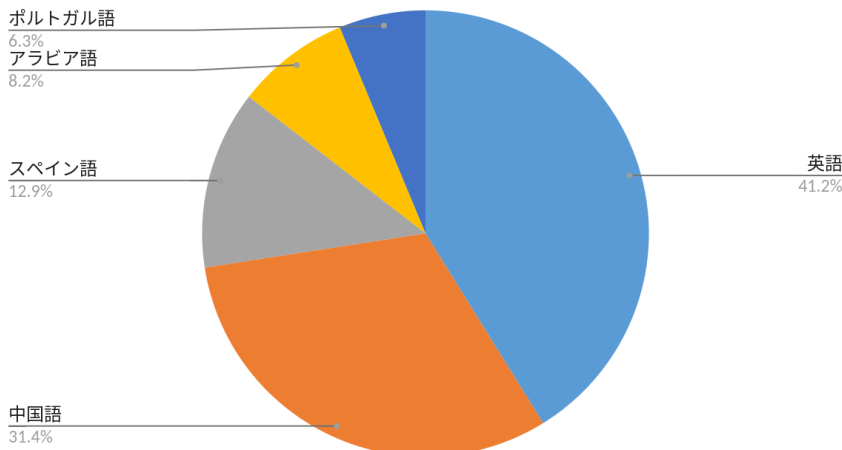
IT技術の発達やグローバル化が進む中で、IT技術が人間の正確性や効率性を上回り、精密な作業や単純な作業がロボットに取って変わられつつあると言われている。

それゆえ、これからの若者に求められるスキルのひとつは、英語力である。今や英語は世界中でコミュニケーションの手段として広く用いられているからである。

### ① 公用語ランキング・59カ国



### ② ネット上言語使用者数



グラフ①はそれぞれの言語を公用語として使用している国の数を調べた結果を、グラフ②は世界のインターネット人口41.5億人を使用言語別に分けた結果を表している。このようにグラフにまとめて視覚化すると、現代における英語の重要性がよく分かる。

若者に必要なスキルのもうひとつはデザイン力だといわれている。デザインには想像力と感性が必要であるため、ITが発達しても、人間が持つそれらの能力を肩代わりするのは難しいとされているからである。

デザインというものはアートの延長線上にあるため、デザイン力を身に着けるためにはアートを学ぶ必要がある。英語とアートというものは一見すると全く関連がなさそうに見えるが、お互いの特性を同時に学ぶことで別々に学ぶよりうまく学べるのではないかと考えた。

アート、つまりイラストや写真などの視覚資料を用いることでイメージと結びつけて英単語を覚えやすくなるというメリットが考えられる。また、英語でアート作品を学ぶことで異文化の知識を身に着けることができる。例えば、西洋の宗教画は聖書という同じテーマに基づいて描かれるので、国や時代背景、作者の着眼点によって聖書に登場する人物の描き方が異なる。このように、アート作品はその国の文化を反映しているので背景知識を習得できるということだ。

また、アート作品を見て感じる抽象的な心の動きを文章に落とし込むことで、その作品への理解がさらに深まります。それを英語で行うことで、英語の表現力の向上にもつながると考えられる。海外の人ともアートについて話し合うことができるようになると、多様なデザイン力を身に着けるための基礎教養を得ることができると考えられる。このことから、CLILという勉強法を用いて授業の題材にアートを用いることで、英語とアートをうまく学べるのではないかと考えられる。根拠として相原正男の美術作品を見ると脳の前頭前野という部分が活発になるという研究結果もあり、これは英語を勉強するときによく働く部位と同じである。また、CLILで英語を使ってアートを学ぶことで、アート作品に触れる機会が増え、異文化の背景知識も身に付きやすくなると考える。

## 2. 研究手法

高津高校生の2年生36人と⑥を①の二つのグループをそれぞれ16人ずつに分け、①のグループにはその英単語を画像を用いて覚えてもらい、⑥のグループには画像を使わずに英単語だけで覚えてもらった。暗記と記憶についての文献を参考にして暗記期間を1日で、目安は10分を設けて作業に取り組んでもらい、翌日の放課後に同じ教室、つまり同環境で5分の制限時間を設けてテストを実施しました。英単語はそれぞれ発音やつづりが似ていて、覚えにくいものをイメージ図を用いると、より効果的に英単語を覚えることができるという仮説を検証することを目的として、以下の実験を行なった。

1. yoke くびき		yoke くびき
2. ivy ツタ		ivy ツタ
3. infant 幼児		infant 幼児
4. raw 生の		raw 生の
5. curb 縁石		curb 縁石
6. ballet バレエ		ballet バレエ
7. row 列		row 列

### 3. 結果

#### aグループ

実験結果は以下ようになった。

絵や写真などのイメージなし

平均点:8.777...

最低点:3

最高点:14

#### bグループ

絵や写真などのイメージなし

平均点:9.111...

最低点:3

最高点:14

絵や写真などのイメージを用いて覚えたグループの方が、平均点が0.4点高くなった。

ほかにも研究過程で調べた資料や論文(日本語と英語のと英語の同じ意味の単語について深い意味や歴史から来た意味を探る)によれば、身近にあり、具体的な視覚的なイメージとしてとらえることができるものや、一度見たことがあって既に知っているもの、言葉は違えど、様々な国において共通認識があるもの(山、川など)とともに言語を学ぶことによってイメージと言語がリンクして定着率が上がる。

### 4. 考察・まとめ

先ほど述べたように、文字情報のみでなく絵や写真などの視覚資料も用いるほうが英単語の習得が早く効率が向上するのではないかという私たちの仮説を実験によって裏付けることができた。

先述した、美術作品を見ることで記憶力や創造力、表現力を司る脳の前頭前野が活性化することと合わせると、アートと英語を同時に学ぶことは、その部位を働かせながら英語力を伸ばすことにつながると考えられる。つまり英語のコミュニケーション能力の向上がはかれると考えた。加えて前述のようにアートを学ぶことが異文化の背景知識を身につける機会になることから、英語と同時にアートを学ぶことがこれからの社会に必要な能力を養える授業になるのではないかと考えた。

そこでその効果をいかすためには、芸術作品を見ながらそれを英語で説明したり、説明を聞いたりして、視覚情報と言語をリンクさせることや、芸術作品に描かれているものを英語に訳してみるなどの手法をとることが考えられる。

### 5. 参考文献ならびに参考Webページ

アートのある暮らし協会.(日付不明).

大修館.(2021).『CLILをヒントにした授業づくり』.『英語教育2021年8月号』.6-31.

鈴木孝夫.(1990).『日本語と外国語』.岩波書店12/29

鈴木孝夫.(1990).『日本人はなぜ英語ができないか』.岩波書店. 12/17

奥村高明.(2016).エグゼクティブは美術館に集う『能力』を覚醒する美術鑑賞.(2021/12/26)

「Think the Earth | 012 Earthrium アースリウム」

[https://www.thinktheearth.net/jp/earthrium/13language/...](https://www.thinktheearth.net/jp/earthrium/13language/)

「世界の言語ランキングTOP31！アラビア語が驚異の成長率に ...」

<https://japan.wipgroup.com/media/language-population>

一般社団法人アートのある暮らし協会.参照先:<http://artlifestyling.com> (2021年12月24日)

前頭前皮質.(日付不明).参照先:<https://ja.m.wikipedia.org>